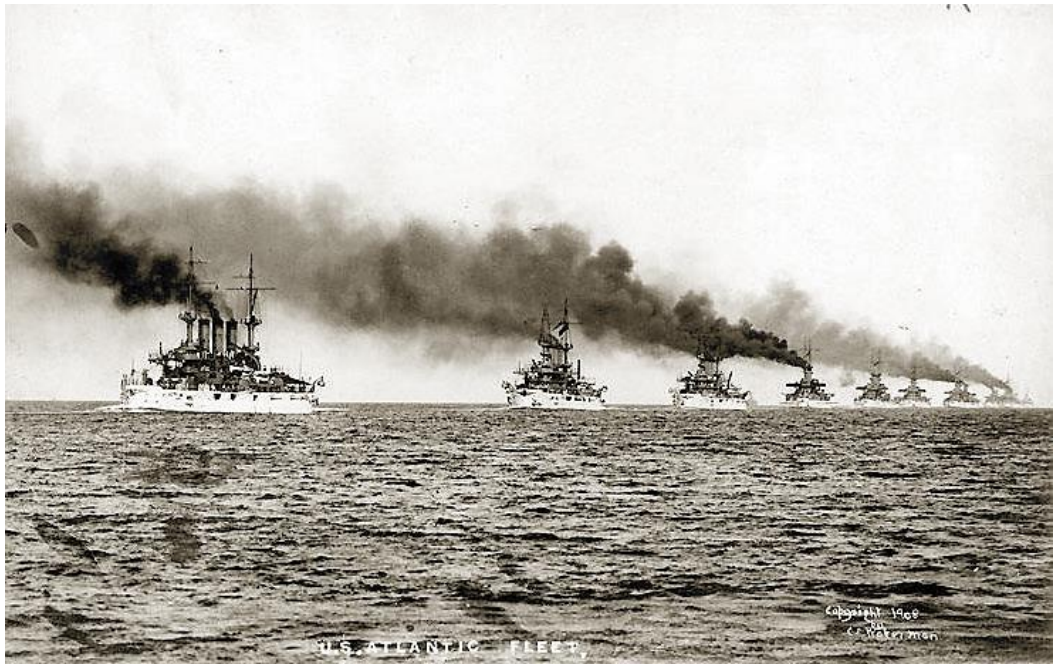
米国白色艦隊の来航（1908年明治41年）



黒船から半世紀、1908年（明治41年）10月米国大西洋艦隊が、世界一周の途中で横浜に来航した。16隻の軍艦は、白く塗られていたことから、Great White Fleet（白色艦隊）と呼ばれた。

当時、日露戦争に勝利した日本は、満州での利権や太平洋での影響力をめぐって、アメリカと対立していました。また西海岸での日本人移民の急増が排日の気運を高め、欧米のメディアを中心に両国関係の危機説が囁かれていた。

1907年12月、アメリカ大統領セオドア・ローズヴェルトは、大西洋艦隊を太平洋沿岸へと派遣し、南米、西海岸、ハワイ、オセアニア、アジア、中東、地中海を巡る14カ月の演習航海が始まる。

艦隊派遣重要な目的の一つに特に日本にアメリカの海軍力を誇示し、圧力をかけることが重要な目的だった。

しかし、1908年10月18日、横浜にやってきた米艦隊を待っていたのは、歓迎の嵐でした。艦隊が滞在した25日までの８日間、政府や様々な団体が歓迎行事を繰り広げ、横浜と東京での歓迎ぶりは、世界周航の中で最も熱烈なものだった。

一方で、日本海軍はこの様な歓迎行事を実施しつつ、大演習を実施し警戒の目は緩めていなかった。

日本は、白色艦隊来航という軍事的圧力を、熱烈歓迎と警戒という「硬軟」絶妙なバランスをもって、両国間の親善と安定保持をはかった。

歴史の教訓として学ぶべきものがある様な気がする。